

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872300231		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころろ	ユニット名	あやめ
所在地	〒311-2423 茨城県潮来市日の出1-21-1		
自己評価作成日	平成26年7月2日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0872300231-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年7月30日	評価機関 決 裁 日	平成26年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりにゆったりと関わりながら、利用者のできることで、得意としていることなど、能力を活かした役割のある生活を支援しています。ホームには広々としたデッキや庭にはベンチがあり利用者は思い思いに過ごし外気浴を楽しんでいます。また、パンを焼いたり、野菜や草花を育てたり、買い物や外食など利用者の楽しみごとを支援しています。利用者同士がさり気なく助け合い、生活の中には笑顔が絶えず、アットホームな環境の下で地域との関わりを深めながら明るく生活しています。利用者・家族・職員の良い三角関係が全ての家族と築けるよう日々精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から車で5分程脇に入った新興住宅地に立地しており、利用者が地域住民と関わり易く穏やかに暮らすことができるほか、事業所近くにある中学校や高等学校の生徒との交流や地域公民館での集会に参加しながら、地域住民と交流ができる環境になっている。

代表者は事業所の庭の敷地に利用者が気軽に日光浴や外気浴を楽しめるよう花を植えたり、藤棚を作り、その下でお茶を飲みながら散歩ができる環境にしているほか、ビニールハウスを設置してきゅうりや茄子、トマトなどの野菜を作り、利用者が野菜の成長や収穫を楽しみにできるよう工夫をしている。

屋根にソーラーパネルを設置して災害時の電気確保に備えている。

管理者は日頃から職員が気軽に提案や要望が出せるように同じ仕事をして気持ちを理解しつつ、職員からの話しはしっかり聴いてコミュニケーションを図るなど、事業所の運営に反映させている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを実践しており、職員間で利用者のもてる力を確認しあってプランを作成している。また、タオルたたみや食器拭きなど出来る事をやってもらっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、玄関と居間に掲示している。管理者と職員は毎朝の朝礼時に理念を唱和しながら共有し、実践に結び付けている。管理者は突然職員に「理念を言ってみて」と問いかけ、理念を再確認させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、ボランティア（3団体）の方々に来て頂き、大正琴・尺八の演奏に合わせて歌を歌ったり、読み聞かせボランティアの方々との会話を楽しみながら、地域の方々と交流を深めている。	利用者は職員と一緒に月1回市主催の地域公民館で開催する体操やカラオケなどの催しに参加したり、散歩時に地域住民と挨拶を交わすなど、日常的に地域住民と交流している。毎月読み聞かせや大正琴、尺八、カラオケなどのボランティアを受け入れているほか、近隣の高等学校生の職場体験を受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らせるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生（地元中学生）の職場体験で生徒を受け入れたり、初任者研修の実習生を受け入れたりしている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出た意見を職員で検討し取り入れるようにしてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、ボランティアの代表、代表者、管理者で開催しているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。市職員から前年度の外部評価の課題でもある、運営推進会議の2ヶ月に1回開催に向けて「年間計画を立てた方が委員の参加が得易いのではないか」との提案を受け、代表者は年間計画を立てて次回開催日を事前に通知するようにしている。	前年度の課題でもあった「2ヶ月に1回の開催」が達成されていないので、引き続きその実現が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの空き情報や、入居者の状態などを市役所に出向いたときに話をしている。	管理者は要介護更新認定の申請などで毎月市担当者を訪問し、運営状況や空き情報を報告するほか、市担当者から介護保険制度の改正や研修、お知らせなどを郵送や電話で知らせてもらっている。 介護保険制度の疑問点や利用者の支払状況に関しての困りごとなどを相談して指導や助言を得るなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、理解に努めている。又新人に対しては、入職時に学ぶ機会を設けている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書や重要事項説明書に明記するとともに、職員は月1回のカンファレンス時に身体拘束になっていないかを確認し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 管理者と職員は定期的に身体拘束をしないケアの勉強会を実施しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解しているが、勉強会の記録を残すまでには至っていない。	勉強会を実施した際には、参加者や話し合った内容などを記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者虐待防止法』について、職員が正しく理解できるように具体的な例をあげ確認している。またその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援法や成年後見制度について全体会議等の中で勉強し、対象者がいるか確認しあっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明に時間がかかる事を時に事前に連絡しておき、時間を十分とり事細かに説明し、家族に理解と納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には行事の感想など本人の希望やニーズの聞き取りしている。家族とは面会時に希望やホームの取り組みを説明しそれに対する率直な感想や要望を聞くようにしている。会えない家族には年2回アンケートを実施して意見を聞ける機会を設けている。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見等を聴くように努めている。 年1回開催する敬老会や食事会の参加確認の書類を家族等に発送する際に、意見等があれば記載してもらうなど、家族等からの声を汲みあげるように努めている。 家族等から「年間計画を事前に知らせて欲しい」や「一部の利用者の呼び名をちゃん付けしている職員がいる」などの要望や指摘があり、管理者は年間計画を作成するとともに、職員に利用者の呼び方について徹底した指導を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や要望を出しやすいように『職員用意見箱』を設置し、利用者や業務に対して意見・要望・改善提案などを出しやすいようにしている。また、出た意見を全体ミーティングで話し合っている。	管理者は月1回のミーティング時に職員の意見や提案を聞くとともに、休憩時にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「利用者の夏の暑さ予防にクールネックを付けてはどうか」や「職員が利用者の入浴支援を行う際にハーフパンツやシャツなどの洋服を購入して欲しい」などの提案や要望を受け、代表者は全利用者分のクールネックと全職員の着替え用の洋服をそれぞれ購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇取得ができるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。職員の経験年数もかみしながら研修会に参加できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。又経験に応じて必要と思われる研修・講習会等にも参加させている。またベテラン職員には謙虚に話を聞く姿勢を、経験が浅い職員には物事を教わる姿勢を教えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン等を基に積極的に関わると同時に、本人のこだわりなどを探り、その傾向性を知って、本人に受け取りやすい態度と言葉を用いて信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対して、どうあって欲しいのかなど家族の思いを聞き出し、その思いを実践できるように尽力することを約束することで、家族の不安を取り除き信頼関係を作れるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に不安に思っている事を聞き出しその改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の歌を教えてもらい一緒に歌ったり、野菜作りを一緒に行ったり、時には利用者の方が職員に気をつけていただいたりしながら生活を共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、その時に家族と一緒に食事や出し物を楽しんだりして、家族との絆を大切にしている。また、家族交流会においては、家族からの意見・要望を聞ける場をもうけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話ができるような環境を提供している。本人が慣れたしんだ店に買物や外食に出かけたりしている。	職員は家族等から話を聴いたり利用者との日々の会話から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、居心地よく過ごせるようお茶を出して接待をしている。 職員は利用者と一緒に以前暮らしていた自宅の前を車で通ったり、馴染みの神社で開催する「延方相撲」や様々な種類の水鳥や渡り鳥が飛来してくる「白鳥の里」などを訪れ、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。 利用者が馴染みの美容室や理容室、墓参りなどに行きたい場合は、家族等の協力を得て支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な体操やレクリエーションを通し、利用者同士が声をかけあったり、一緒に行くことで楽しんだり、孤立しないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（死亡等）しても、暑中見舞いや年賀状のやりとりをしている。また他施設に移った場合など、面会に行ったりもしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話のなかから、希望や意向などを聞き出せるようにして、随時職員間で話し合いをし、本人が望む『自分らしい生活』が送れるようよう検討している。	管理者と職員は入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握しているほか、利用者一人ひとりに担当職員が決まっているため、情報を把握し易い体制となっている。 日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めるとともに、意思疎通が困難な利用者の場合には表情や仕草から判断したり、家族等からの情報を得ているほか、管理者や職員と話し合っって利用者の思いを汲み取るよう努めている。 把握した内容は個人毎に「生活記録」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に入居までの生活歴などを聞き出し、なるべく今まで通りの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事をしていただいている。又一人ひとりの心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中での気づき、本人・家族の意見や要望を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。一定期間後にモニタリングを行い状況によっては介護計画を見直している。	介護計画は月1回カンファレンスを行い、利用者や家族等の意見や要望のほか、医師や職員の意見等を取り入れて計画作成担当者が作成するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを実施して3ヶ月から6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人が発した言葉などを記録に残し、全職員が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。またその情報を元にその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、浪逆会（地域老人会の集まり）へ出席し、近隣の老人会の方々と交流している。あやめの時期にはあやめ見学に行ったりして楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関に受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、意向を確認している。 入居前からのかかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時には利用者の状態を家族等に伝えている。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療で利用者の健康管理をしている。 受診結果は家族等に電話で報告するとともに、利用者一人ひとりの「医療情報」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診時に利用者の状態を伝え指示を仰ぎ対応するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、担当看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連絡をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、状況に応じ職員間で対応方針について検討している。また通院時に主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催している。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 事業所は利用者や家族等の希望があれば協力医療機関の医師や看護師と連携を図り、看取り介護を支援する方針であったが、協力医療機関の変更とともに、看護師との連携が図られておらず、現在は看取り介護は支援できない状態である。 管理者は職員に利用者の重度化した場合などに備え、定期的に勉強会を実施し、重度化の対応や看取り介護へ向けての理解などを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルに基づいて勉強会を開催している。また、利用者の急変や事故発生時に備えて迅速に対応できるように訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域の方に災害時の協力を承諾してもらっている。	年1回消火訓練や避難訓練を実施しているが、夜間想定を含む避難訓練を年2回以上実施するまでには至っていない。 災害時には近隣住民の協力を得られることを口頭で承諾してもらっているが、避難訓練に参加を得るまでには至っていない。 避難訓練の実施状況や反省点は記録に残しているが、今後の課題などを話し合って記録に残すまでには至っていない。 災害に備えて米や水、冷凍食品、発電機、毛布、布団などを備蓄するとともに、電気確保のため、屋根にソーラーパネルを設置しているが、備蓄品リストを作成して管理するまでには至っていない。	避難訓練は年2回以上実施するとともに、内1回は夜間想定での避難訓練を実施することが望まれる。 前年度の課題でもあった「避難訓練に近隣住民の参加」や「備蓄品リストの作成」が達成されていないので、引き続きその実現を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が、職員間で共有できるよう、ミーティングで話し合い、プライバシーを傷つけないように配慮している。	管理者や職員は利用者の呼び方や言葉遣いに気を配り、言われたくないことを言わないよう意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に支援をしている。 トイレ誘導時には利用者に小声で声をかけ、トイレのドアは閉めるなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報を使用する場合は、利用目的を明示して事前に利用者や家族等の承諾を得ているほか、個人情報に関する書類は事務室の施錠ができるキャビネットに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動、発言を良く確認しながら本人の気持ちを察しながらの声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、常に自分が行うケアが利用者様のペースで行っているか確認するようにする。また、ことわざ・塗り絵・カラオケなど色々工夫した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て楽しんだり、時には職員と一緒に買物にでかけ本人の好きな服を買ってきたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事（昼食・夕食）の準備や食器拭きをしていただきつつしている。また畑でできた農作物などを一緒に収穫に行き料理して食べたりしている。	朝食と昼食の献立は利用者と職員が一緒に決め、職員が食材を購入しているほか、夕食の献立は宅配業者による食材が届き、職員が調理をしている。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきなどの下準備やテーブル拭き、後片付けをしている。 利用者の咀嚼能力に応じてトロミを付けたり、ペースト状にしたり、刻み職にしたりして、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。 食事が楽しめるよう自家菜園で収穫したトマトやきゅうり、茄子などの野菜を食材に活用しているほか、月1回外食を取り入れたり、誕生会には手作りケーキで祝ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などに変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアができる方は見守りや声かけを行っている。歯ブラシの交換を定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、本人がトイレ行かれた時にはプライバシーを損ねないように、声かけや対応には十分注意している。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援をしているほか、布パンツやパッドとりハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。 失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材を利用したりしている。また軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回行っており、常時入りたい時に入れるようにしている。また入浴剤を入れたりし、入浴を楽しめるように工夫している。	風呂は毎日沸かし、週2回を基本に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、事業所内を散歩しながら「足の疲れをとりましょう」など、利用者の興味のある話をしながらさりげなく風呂場に誘導するなど、無理なく入浴ができるよう工夫をしている。 入浴剤を使用して温泉気分を味わってもらうなど、入浴が楽しみとなるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また、利用者の体調に合わせて休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合には和室や居室で休むよう誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ（花見・あやめ見学）に出かけたり、外食に出かけたりして楽しんでいる。生活の役割分担を行うことで本人様の使命感を生み、またそれに対して感謝の意を伝える事で心の充足をもてるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出かけたり、天気の良い日はドライブに出かけたり、近くの公園まで散歩したりしている。	<p>天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺を散歩するほか、事業所の庭を散策したり、庭にある藤棚の下の椅子に腰かけたり、自家菜園で草取りや水やりをしたりして、五感を刺激しながら利用者が気軽に外気にふれられるように支援をしている。</p> <p>外出ができない利用者には、居間兼食堂から出入りができる20畳程の広さのウッドデッキで、テーブルと椅子を配置してお茶を飲んだり、食事をしたりして、気軽に日光浴や外気にふれられるように支援をしている。</p> <p>ドライブを兼ねて近隣の湖に様々な渡り鳥を見に行ったり、近隣の公園まで行き、桜やチューリップ、銀杏など、季節の花や木を観賞して四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるように支援をしている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な為、必要な物や本人が希望する物は施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に電話出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾ったり、季節感のある小物なども置いている。和室・ソファでゆっくりしながら談話しながら過ごしている。また天気の良い日はデッキに出て日光浴をしたりしている。	<p>玄関には外部から雑菌が持ち込まれないよう手指消毒薬やマスクを置いている。</p> <p>居間兼食堂はウッドデッキに出入りができる大きな窓から自然光や外気を取り入れたり、換気や温度調節を行ったりして快適に過ごせるよう配慮している。</p> <p>居間兼食堂の壁には行事時の写真を掲示したり、利用者と職員でお花紙で制作したカーネーションなどの花を飾ったりして季節を感じる事ができる空間となっている。</p> <p>廊下は広く車いすを使用している利用者も楽に行き来ができるほか、廊下に手摺を設置し、物を置かないようにして利用者の転倒を予防し、安全な暮らしができるよう努めるとともに、夏の暑い日や雨の日には広い廊下を歩行訓練のスペースとして活用し、下肢筋力の維持につなげている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキから中庭に出る事もでき、藤棚のしたのベンチで利用者同士でお茶をしたり庭を眺めたりしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたソファやベット・布団等を使用している。	居室にはエアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら、使い慣れたベッドや整理箆筒、椅子、テレビ、鏡台、時計、趣味の機織り機、家族の写真など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分るよう入り口に大きな名前札を設置している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ

作成日 平成27年 1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に1回開催できていない状況。	2ヶ月に1回を目標に定期的に開催できるようにする。	出席者メンバーへ、年間の開催計画予定を配布し、その都度連絡・調整を行い開催していく。	12ヶ月
2	6	勉強会を実施した際は、参加者や話し合った内容などが記録に残っていない。	勉強会を実施した内容等、記録漏れがないようにする。	勉強会を開催した時は、必ず書記を決めて議事録を作成し、管理者が内容漏れがないか議事録を確認する。	3ヶ月
3	35	夜間想定と近隣住民が参加しての避難訓練が開催できていない。	夜間想定と近隣住民が参加しての避難訓練の開催。備蓄品リストの作成。	避難訓練の開催日数を増やし、夜間想定と近隣住民が参加しての避難訓練を開催する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。